

テーマ 「減災技術ワーキングチームの活動」

～地域防災力向上のために、技術士は今後何をすべきか～

機関名: 防災支援委員会 ワーキングチーム-D

氏名: 丹羽 真ノにわ まこと (水産)

Mail: niwa.makoto@senc21.jp



「減災技術ワーキングチーム-D の活動」

ワーキングチーム新は、平成 24 年 5 月 10 日に 3 名より結成されました。実際の災害発生時に、防災・減災の面で一般住民に役立つものをつくっていききたい。その内容は一般住民と技術専門家の橋渡しとなるものにしたいという思いから始められました。

実際の災害発生時に役立つものは何か。実際に災害が発生してしまえば、災害の規模にもよりますが、災害の規模が大きければ大きいほど、自分の持ち物も確保することも困難で、自分の手足を使った行動と自分の頭の中に貯えられた知識しか頼りになりません。そして、災害時にすぐ行動へ移すためには、普段からの行動（訓練）や刷り込みが必要です。災害が発生してから書類や資料を読むのではなく、実際には普段から読んでおいた知識を緊急時に役に立てなければなりません。瞬間的に的確な行動をとらないと自らの命や大切な家族の命を落とすことになってしまいます。自分の頭の中に、瞬間的に的確な行動を起こすための情報を貯えておくにはどうすればよいか、という問いの答えとして、このワーキングチームの主題“防災キャッチコピー”は生まれました。

東日本大震災以降、世の中には震災の教訓集などが整理され、情報は氾濫していますが、人が咄嗟の判断として覚えておかなければならない情報量には限りがあります。また、咄嗟の判断にも諸説があり、「机の下へなど自分の身の安全確保」、「火元の始末」、「避難口の確保」の順序にも、その人の災害発生時にいる周辺環境によって、優先順位が変わってきます。また、目安とされる時間や高さ、距離などもその人のいる環境によって変わってきます。私たちは、できるだけ、防災キャッチコピーとして必要なものを厳選して、その技術的な根拠や過去の事例をあげて、技術的根拠にもとづいたキャッチコピーをつくりたいと思っています。それが一般住民と技術専門家の橋渡しになると考えています。

震災の教訓には、「平常時からの備え」、「人命にかかわるもの（発災時）」、「生活を取り戻すためのもの」、「復興にかかわるもの」など、それぞれのステージに合わせた教訓があります。キャッチコピーにすること自体、緊急時の備えとするためのものですから、「人命にかかわるもの（発災時）」は必要です。平常時からの備えがあればこそ、自らの命を守ることができるので、ステージとしては「平常時からの備え」と「人命にかかわるもの」のキャッチコピーを作成します。いずれ「生活を取り戻すためのもの」や「復興にかかわるもの」についても課題を整理していききたいと考えています。

この防災キャッチコピーを社会に広めていくには、①技術士らしい説明の伴ったキャッチコピーの作成②キャッチコピーを広める伝え方（本、かるたなど）③地域組織や小中学校など現実の組織への働きかけ、などの段階を踏んでいく必要がありますが、まず、技術士らしい説明の伴ったキャッチコピーの作成をこの 2 年間で作成したいと考えています。